

## 回避性パーソナリティ障害の診断基準

社会的制止、不全感、及び否定的評価に対する過敏性の広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち4つ（又はそれ以上）によって示される。

チェック

(1) 批判、否認、又は拒絶に対する恐怖のために、重要な対人接触のある職業的活動を避ける。	
(2) 好かれていると確信できなければ、人との関係を持ちたいと思わない。	
(3) 恥をかかされること、又はばかにされることを恐れるために、親密な関係の中でも遠慮を示す。	
(4) 社会的な状況では、批判されること、又は拒絶されることに心がとらわれている。	
(5) 不全感のために、新しい対人関係状況で制止が起こる。	
(6) 自分は社会的に不適切である、人間として長所がない、又は他の人より劣っていると思っている。	
(7) 恥ずかしいことになるかもしれないという理由で、個人的な危険をおかすこと、又は何か新しい活動に取りかかることに、異常なほど引っ込み思案である。	

※本文は、「DSM-IV-TR 分類と診断の手引き」（医学書院）を参照しています。